介護・福祉

5年後、有老倍増へ
デイ・ショート事業も強化

アズパートナーズ（東京都千代田区）は、4月に10棟目の介護付有料老人ホーム「アズハイム横浜いずみ中央」を開設。首都圏を中心にシニア事業「アズハイム」ブランドを展開し、現在有料老人ホーム10棟、デイサービス5拠点、ショートステイ1棟を運営している。

木造3階建ての「アズハイム横浜いずみ中央」は、総居室数79室（定員数79名）、居室面積は18・63㎡のホーム。入居一時金はプランAの0円からプランEの900万円まで5プランを用意し、入居者の月額利用料負担の要望に応じた料金体系を採用している。

3月27日に行なった開所式の挨拶で植村健志社長は「医療体制を強化するために看護・介護職員の人員配置は2：1体制を採用し、地域医療連携度の高い要介護者や認知症の要介護者などの積極入居を促したい」と同ホームの運営方針を語り、併設する40名定員のデイサービス事業では「ワンランク上のサービスをコンセプトとした『大人のデイ』として、理学療法士による個別訓練、個別レクリエーション、カルチャー教室、イベントなどを開催し、地域に根差した展開を図っていく。介護付有料老人ホームについては、既に千葉に1棟、川崎に1棟、町田に1棟の計3棟の計画が進んでおり、年間2棟ペースでの開設を目指す。

今年、第10期を迎えた同社は、中期ビジョンとして5年後に介護付有料老人ホーム20棟の運営を目標に掲げ、デイサービス、ショートステイ事業の積極展開も図っていく。

このため、今期には500人を超えるスタッフが同じ方向を向き、中期ビジョン達成に邁進することができる環境の実現を目指し、協調性やチームワークを高める取り組み、働くスタッフの満足度の追求、そして人材育成にもこれまで以上に注力する。

スタッフ満足が入居者・利用者満足に繋がると考え、社内イベントや社会貢献活動を積極的に開催し、職場を越えたスタッフの交流やコミュニケーションの機会を増やすことで社員満足・人間力向上に努めていく。

▲3月27日に行った開所式の様子

◀室内の様子

▶アズハイム横浜いずみ中央」の外観

地域包括ケアと高齢者の住まい
――その理念と役割――

高橋紘士教授

国際医療福祉大学大学院医療福祉学分野教授。1944年生まれ。立教大学教授などを歴任後、2010年4月より現職。(財)高齢者住宅財団理事長、(社)高齢者住宅推進機構理事、(社)有料老人ホーム協会理事などを兼務。地域包括ケア研究会委員(厚労省)、高齢者居住安定化モデル事業評価委員会座長(国交省)、国土審議会長期展望委員会委員(国交省)などを務める。地域包括支援センター実務必携(オーム社)、コミュニティ福祉学入門(有斐閣)、介護保険のマネジメントシステム(医学書院)、高齢者の権利擁護システム(勁草書房)など著作多数。専攻は福祉政策、地域ケア論。

第36回「とも暮らし」～ナガヤタワーの竣工によせて

鹿児島の診療所

隣地に多世代住宅

鹿児島中央駅から、ナポリ通り沿い、甲突川と並行した道路と公園に挟まれたところに、「堂園メディカルハウス」がある。築後17年を迎えたこの有床診療所は、内科と産婦人科を標榜しているが、様々なオルタナティブメディシンも導入した旧来型の西洋医学の域を越えた診療活動を展開している。

クリニックという通称ではなく、このメディカルハウスという名称も院長である堂園晴彦医師の理念が反映されている。

治療の場のみならず生活が展開する場としてのハウスという名称に込められているのは、人々の生活を尊重した医療という理念の反映である。また重症のアトピーの患者が県外からも来診し長期滞在されるとのことなど、文字通り人生のすべての局面で全人的な医療を提供する場を実現している。

病める方々のために、様々なボランティアの方々により活動が展開されているのも特筆すべきである。

二階はワンフロア全体がコミュニティカフェとして、様々な方の居場所として、また、憩いの場でもあり、また様々な方たちのふれ合いの場としても機能している。

このような活動の展開として、国交省の「高齢者・障害者・子育て世帯等居住安定化推進事業」の平成22年事業に採択され、このほど隣地に「ナガヤタワー」が建設され、この度竣工式を迎えた。

鹿児島の姉妹都市であるナポリにちなんだ通りに面して、テラコッタ様式の鮮やかな黄色の6階建て、V字型のデザインは、屋久島在住のウィリアム・ブラウアー氏が担当した。

▲「ナガヤタワー」外観のイメージパース

住まい方の"新しい器"完成

ナガヤタワーの運営計画によると、江戸時代の長屋のようにさりげなく助け合うこと、これを可能にする共有エリアが贅沢に配置されていること。「住人参加型住宅」として住人相互の関わりを支援し、様々なサポート体制づくりを担当する社会福祉士が配置される。また高齢入居者のサポート、共有エリアの掃除等をしてくれる学生には家賃割引を用意していること。希望する人には24時間対応、食事、健康管理サービスを提供し、退院後自宅に戻るまでの入居など短期、長期入居も可能である。

多様な暮らし可能 生活支援サービスも

また最期まで自分の部屋ですごすために介護・医療は堂園メディカルハウスの看取りも含むサポートが利用できること、クリーニング、宅配ができるコンビニ、食堂、発達障害の子供のための施設などがテナントとして一階部分に入居すること、等々が計画されている。

入居費用をリーズナブルな水準に抑えた居室部分は20平米のワンルームから45平米の2LDKまで、シェアも可能な多様な世帯が、多様な住まい方を想定して用意してある。文字通り老若男女の「とも暮らし」の場が用意されている。

個室ユニットケアの提唱者である、故外山義教授が、ケアの空間を説明する概念として、プライベート、セミプライベート、セミパブリック、パブリックという4段階論を提唱されていたが、まさにこの長屋タワーはセミプライベート、セミパブリックの空間が豊かにしつらえられていることが特徴である。

この場を活用して、住民による多様な活動が今後展開されることが期待できるし、それを支援する人的なコーディネート機能も用意されている。

最低限の私室を数多く配置し、最小限の共有空間に留める従来型の共同住宅とは様相を大きく異にするこのナガヤタワーは入居者を迎え、文字通り「器に魂をいれる」段階に達した。我が国がこれから経験する未踏の少子高齢化段階における住まい方のモデルとしてナガヤタワーがどのような展開をするか、刮目して見守りたい。

ネピアテンダー
ネピアのあんしん紙おむつ
ーパンツタイプは4サイズー

■お問い合せ
王子ネピア株式会社
ケアサポート事業本部　広域法人部
〒104-8319
東京都中央区銀座5-12-8　王子ホールディングス1号館
TEL.03-3248-2864　受付時間9：00～17：30（土、日、祝日、5月1日を除く）

http://www.nifs.co.jp/

食の側面から医療・福祉を
見つめ支える日清医療食品。
ヘルスケアフードサービス業界の
リーディングカンパニーです。
ヘルスケアフードの明日を考える
日清医療食品株式会社
〒100-6420 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング20階
TEL 03-3287-3611（代表）　FAX 03-3287-3612（代表）